

キリストを現代に伝える人たち ～J.C.ヘボン～

今や小学校では必修科目になっているローマ字ですが、正式名称は「修正ヘボン式(もしくは標準式)ローマ字」と言います。その名の通り、ヘボンという人が生みの親です。彼はどんな人物だったのでしょうか。

J.C.ヘボンこと、ジェームズ・カーチス・ヘップバーン(1815～1911)は、アメリカ・ペンシルヴァニア州出身の医師でした。彼が来日した際、彼の名前を初めて聞いた日本人が、「ヘボン」と聞こえ、彼もその発音が気に入って、以後そう名乗るようになったのでした。

ヘボンは若い頃から、「唯一の神を知らない国に行って、心と体を直す医者になりたい」という熱い思いを抱いていました。そんな彼に、黒船の来航によって、固く閉ざされていた日本が門戸を開き始めた、と知らされました。いても立ってもいられなくなった彼は、日本へ行く決心をしました。順調だった病院も、家も家財も全て売り払い、一人息子も本国に残しての一大決心でした。

周囲の人々は、ヘボン夫妻を思いとどませようとしたが、彼らは、「これは神から与えら

れた使命だ」と反対を押し切り、日本へと出発します。生きて帰って来れないかもしれないと言われますが、「ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。」とのイエスの言葉に力を得て、信仰によって神に全てを委ねて日本に来たのでした。

日本において彼は、神奈川や横浜居留地で無料の診療所を開く傍ら、日本語習得のためにコツコツと学び始めました。やがて、初の和英辞典「和英語林集成」が完成し、ローマ字の元となる表記も取り入れられました。彼の語学力と指導力が買われ、聖書の翻訳作業や教会設立の指導に尽力しました。また、彼が開いたヘボン塾は、後の明治学院の基礎となりました。晩年、湿度の高い気候で病を得、1892年アメリカへ帰国することとなりました。

こうしてヘボンは、犠牲を払い、信仰と情熱をもって激動の日本において、数多くの愛の実を残しました。



助けは主から

幸せでありたい、というのは、私たち全ての願いです。幸せを願わない人は誰もいません。何が私たちを真に幸せにするのでしょうか。お金でしょうか。名誉や地位でしょうか。

財産があっても、心に安らぎがない人はたくさんいます。また、高学歴を持っている人が、とんでもない犯罪に走る例をよく見聞きます。真の幸福は、お金や名声からは来ないのです。では、どこから来るのでしょうか。

聖書の言葉に耳を傾けてみましょう。「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」(詩篇121篇1,2節) 私たちの救い、私たちの幸せは、この天地を創造された生ける神から来るのです。

天地を創造された神とは、なんとスケールの大きい神でしょうか。しかも、この生ける神は、目があっても見ることができず、手があっても助けることができない偶像とは違います。私たちの悩み、苦しみをつぶさに見てくださり、私たちを罪と滅びから救い出してくださいませるお方です。

罪と滅びと言いました。罪とは、私たちの心が本当の神から離れていることです。私たちは、天地を創造されたまことの神を知らず、知ろうともせず、自分勝手な歩みをしてきました。人に対しても冷淡で、傲慢で、邪悪な思いを持つのは、まことの神から離れていることが原因なのです。その結果、私たちは皆滅ぶべき者となっています。

そのような私たちを、神は深く憐れんでくださり、私たちのためにキリストをお送りくださったのです。キリストは、罪を知らないお方でしたのに、私たちに代わって十字架にかかって死なれました。私たちは、自分の罪を悔い改め、キリストがこの自分のために十字架にかかれたと信じるなら、誰でも、どんな罪でも赦され、救われます。この救いをいただいた者が、幸いな者なのです。

あなたも、天地を創造され、キリストを十字架におかけになるほど、私たちを愛してくださいませる本当の神を信じて、救いをいただきませんか。そして、本当の幸いをつかんでみませんか。

教会のひとこま

成人祝福式

1月の第二日曜日は、礼拝の中で成人祝福式が行われました。今は大変な時代です。そんな中であっても若者たちの心と体が守られ、神様の前に健やかに、また真っ直ぐに歩いていくことができますようにと、牧師先生が祝福をお祈りしてくださいました。



宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル(聖書のお話)

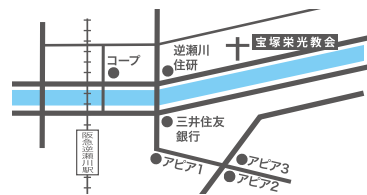
0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30～10:30

第二部 11:00～12:00



教会HP

礼拝動画



「シクラメン — 2月の光 — 」

やわらかい 2月の陽光が さしこむ窓辺
日射しのぬくもりが 部屋の内まで広がり
冷えた空気を 暖めていく

この窓辺に 置いている シクラメンの花は
暖かい 光の方に向かって のびている
心地よい光に つつまれているとき
シクラメンは きまって このような表情をしている

もう 何年目の冬を 迎えているだろう
ていねいに 世話をしながら 花には 話しかけながらしていると
花は生きているので 答えてくれる
そんなシクラメンの花を いとおしく思う

シクラメンは 地中海あたりが原産で
日本には 明治時代に 入ってきた
多くの人達に愛され 喜ばれ 改良が重ねられてきた
今や 冬の鉢花の 代表のように 店先に並ぶ

その一鉢が 我が家に来て この場所を気に入って
ずっと一緒に暮らしている
時に 慰められ 時に 励ましながら…

光は 快いものである
目に太陽を見るのは 楽しいことである
人が多くの年 生きながらえ
そのすべてにおいて 自分を楽しませても
暗い日の多くあるべきことを 忘れてはならない。

伝道者11章(聖書)